

企業のSDGs

～地域共生社会への貢献～

提言

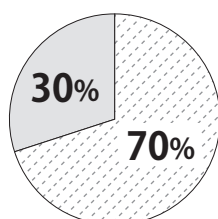
企業は、地域共生社会づくりにとって、重要なプレイヤーである。中でもその一員である従業員の地域参加は課題発見に不可欠。それは従業員の人材育成につながり、企業価値の向上にも資する。地域共生社会は企業市民としての企業も地域とともに一体となって創っていきましょう。

登壇者

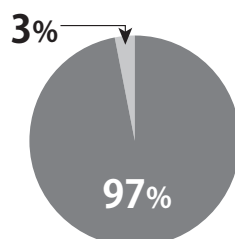
| | | |
|----------|---------|------------------------------------|
| 【進行役】 | 高橋 陽子氏 | (公社) 日本フィランソロピー協会理事長 |
| 【アドバイザー】 | 小野 晶子氏 | (独) 労働政策研究・研修機構 多様な人材部門副統括研究員 |
| | 鈴木 由知氏 | 東京海上日動火災保険 (株) 営業企画部部长兼地方創生・健康経営室長 |
| | 近久 啓太氏 | 大和ハウス工業 (株) サステナビリティ企画部長 |
| | 長瀬 晴信氏 | ヤマト運輸 (株) 地域共創部 |
| | 中野 伊津子氏 | 大阪ガス (株) 総務部管理チーム |

アンケートの結果 参加者概数：104名 回答者数：50名

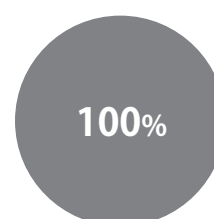
回答者の所属先



助け合い活動をすすめる立場の方



その他の方



■ 議事要旨 高橋 陽子氏

まず、企業市民として先進的な企業4社による地域共生に資する様々な取り組みを紹介した。

鈴木由知さん（東京海上日動火災保険（株））

同社の存在意義（パーパス）である「お客様や地域社会の“いざ”をお守りする」が社員一人ひとりの使命である。全国の部店に200名を超える地方創生担当者を受け、従業員の8割以上を地元から採用している。従って、各部店はまさに地元企業であり、その集合体が同社である、という捉え方をしている。各部店での主体的な取り組みは、自治体や金融機関、商工団体等と連携して進める必要があると考えており、地域の各団体からも気軽に声がけしてほしい。

長瀬晴信さん（ヤマト運輸（株））

重要課題の一つである「地域コミュニティ」に資する取り組みとして、2016年より暮らしのサポートサービス「ネコサポ」を展開（2022年5月現在5地域8店舗）。松戸市の事例では、市と地域包括契約を結び、買い物代行サービスはじめ包丁研ぎ、地域のイベント開催に場所の提供など、暮らしを支えるサポートを展開。地域住民雇用の創出やシルバー人材センターとの荷物の種分けでの連携、コミュニティ拠点として、地域活動団体や住民参加の場となっている。同社には、「ヤマトは我なり」という社訓がある。地域に価値提供できると思うことは自らの意志で率先して実践する、という全員経営の具現化を心がけている。

近久啓太さん（大和ハウス工業（株））

1960年代からの郊外型戸建住宅団地「ネオポリス」は50年が経過し、一部の街では高齢化・商店街の衰退・空き家問題等が顕在化してきた。そこで、課題の解決のために「ネオポリスの再耕」という活動に取り組んでいる。高齢化率40%を超える兵庫県三木市にある緑が丘ネオポリスでは、ミニ胡蝶蘭「COCOLAN」の栽培をす

る特例子会社を設立。障がい者や地域の高齢者などに就労の場を提供すると共に、地元の高校では、街の魅力を見つけて地域に発信。多様な世代が関わり、若い世代が常に流入する多世代・循環型コミュニティ作りに入力している。

中野伊津子さん（大阪ガス（株））

1981年（国際障害者年）に従業員が自発的に地域社会に役立つための企業ボランティア活動として“小さな灯”運動がスタートした。「会社人間から社会人間へ」を目指しさまざまな活動を展開。“小さな灯”運動の原資は、従業員や顧客からの寄付で成り立っている。日常の中に従業員のボランティア機会の創出、意識の醸成を図るべく様々な取り組みや、御堂筋の本社前では福祉施設の製品販売のために軒先を提供したり、見える化に力を入れている。

小野晶子さん（（独）労働政策研究・研修機構）

モニター調査によると、ボランティア活動について、若年層ほど、人脈を得た・仕事に役立ったなどポジティブに受け止めている。企業ボランティアの形態は企業主導のトップダウン型と従業員が主体的に選択するボトムアップ型があるが、まずは従業員が主体的に取り組み、それを企業が奨励するという進め方がその先の発展や継続に有効であるようだ。今後は、地域と個人、企業等がつながって大きな力にしていくことを期待したい。

企業従業員の地域での顔の見える関係構築による主体的な参画が、地域との連携においてもいい効果を生んでいる。従業員も地域に戻れば一住民である。地域共生社会実現のためには、企業も地域の一員である企業市民として、立場を超え力を合わせて課題に向かっていくことが求められている。そして、それは同時に、従業員の感性・能力を磨き、企業価値を高めることにもつながる。

■ 寄せられた声から

- 地元の従業員、社員の方とのコミュニケーション、大切ですね。
- 先進的な企業の活動の話を聞いて、たいへん参考になりました。
- 大手企業の地域共生にすごく関心があり、分科会を選択しました。今後も頑張ってください。私もなにかできる気がしました。

